

ゴールポスの事故に注意！！

平成10年度から平成20年度にかけて、中学校・高等学校においてゴールポスの転倒による死亡・障害事例が16件ありました。



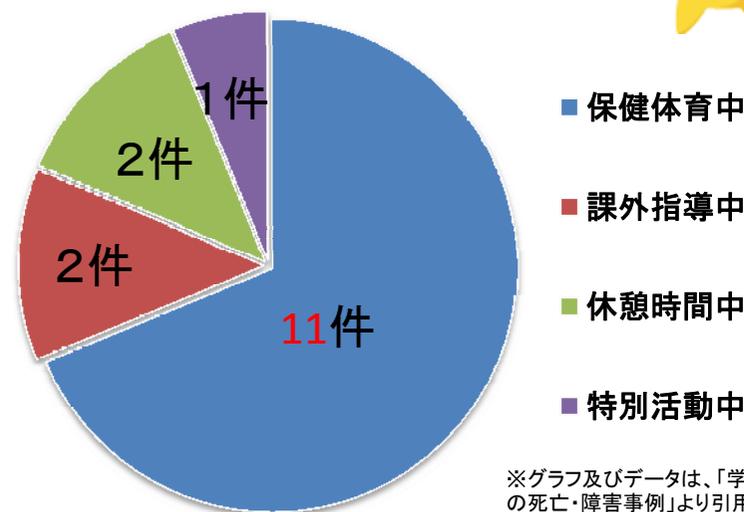
ゴールポスの転倒による事故を場合別に分析してみました。

右グラフの通り、**保健体育中**の事故が約7割を占めています。



また、原因となったゴールポスの種類を見ると**持ち運びのできるゴールポスト**での事故が多くを占めています。

【場合別件数】



※グラフ及びデータは、「学校の管理下の死亡・障害事例」より引用しています。

【原因となったゴールポスト別事故件数】

- サッカーゴールポストが転倒 5件
- ハンドボールゴールポストが転倒 11件

【ゴールポストの転倒による事故事例】

学年	場合別	使用ゴール	死亡・障害の別	死亡・障害種別	発生状況
高3	保健体育	サッカー	障害	精神・神経障害	ふざけてゴールポスト上側に両足をかけぶら下がった際、ゴールポストごと転倒し地面に首を強打した。
中2	保健体育	ハンドボール	障害	胸腹部臓器障害	ハンドボールの鉄製ゴールのクロスバーにぶら下がって懸垂をしていた。3回目に大きく上体を振り上げたところ、ゴールが倒れて、腹部がゴールの下敷きになった。
高2	課外指導	ハンドボール	障害	聴力障害	ハンドボールコートでサッカーをして遊んでいた際、本生徒がゴールポストに飛びつき、反動でゴールが倒れ、ゴールポストと地面に頭を挟まれた。
中3	休憩時間中	サッカー	死亡	頭部外傷	同級生3人と運動場でサッカーボールで遊んでいる中、風にあおられてサッカーゴールが倒れ、ゴールの上部のバーで頭部を強打した。
中3	保健体育	サッカー	障害	眼球運動障害	体育の授業のサッカー中にゴールを決めた。喜んで勢いよくゴールに飛びついたため、ゴールの下敷きになるような形で転倒し、右目及び頭部をゴールの鉄の部分に強打した。



これらの事例を見ると、ゴールポストに「飛びつく」「ぶら下がる」ことで、転倒するケースが多いようです。
定期的に安全管理として設置状況等の点検を行ったり、児童生徒に危険な行為について考えさせることがゴールポストの事故の減少につながるのではないのでしょうか。